

平成21年度科学技術関係概算予算

平成20年12月20日

科学技術国際戦略の一環としての「科学技術外交」～基本的な考え方

●「外交のための科学」

→ 科学技術を外交資産・ツールとして活用し、国際社会の問題解決に貢献

●「科学のための外交」

→ 我が国と世界の科学の更なる発展のために外交活動を強化

●「世界最先端の科学技術を有する日本」とのブランドイメージの向上

→ 日本のソフトパワーが海外の資金や優れた頭脳を日本に引き寄せる

重点事項と具体的取り組み（予算総額 126.2 億円）

● 体制と基盤の強化：科学技術外交ネットワーク(STDN)の構築（別紙1）

→ 本邦と海外拠点で関係機関の連絡会を新設してオールジャパンで対応

● 途上国との枠組みの構築

→ 「地球規模課題対応科学技術協力」(約2.5倍弱の大幅増で32.8億円：別紙2)

● 我が国の優れた科学技術・科学者を海外に発信・紹介

→ 「発信・交流目的での科学者の海外への派遣」(新規で198万円：別紙3)

● 国際的枠組みの活用と貢献

→ 国際機関等への拠出金・分担金等(継続で93.4億円：別紙4)

● その他(在外公館関係)

・ 主要国の科学技術レベルに関する情報収集・分析・評価

→ 我が国にとって有益な共同研究や活動を特定し推進

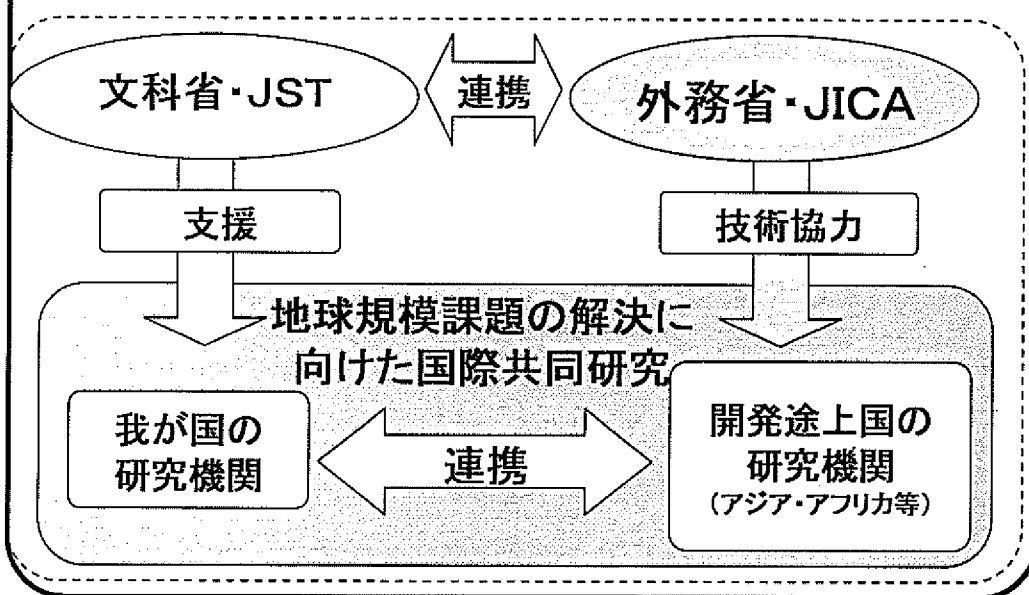
・ 在外公館の科学技術アタッシェ(旧科技庁系)の増員

# 地球規模課題に対応する科学技術協力(21年度32.84億円(ODA))

## ①地球規模課題対応国際科学技術協カプロジェクト

ODA部分:21年度予算26億円(うち新規16億円)

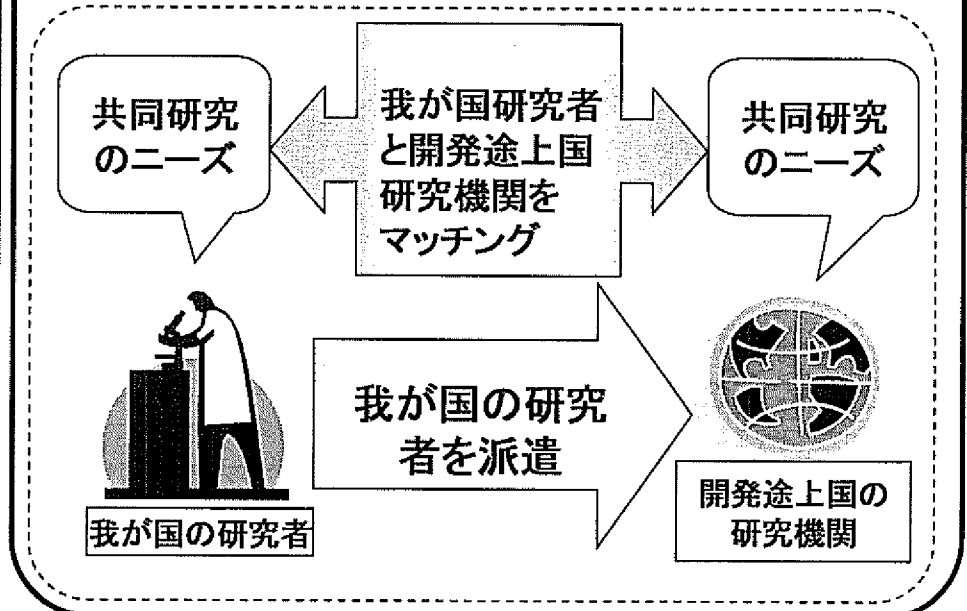
- ・環境・エネルギー、防災、感染症対策の地球規模課題について、我が国と開発途上国の研究機関が、外務省・JICA及び文科省・JST連携による支援のもと国際共同研究を実施。
- ・共同研究を通じ、問題解決につながる成果を創出するとともに、開発途上国研究機関の能力向上を図る。



## ②科学技術研究員派遣

ODA部分:21年度予算6.84億円

- ・我が国と途上国の研究ニーズをマッチングのうえ、地球規模課題に関する共同研究のために研究員を派遣。
- ・途上国研究機関のニーズに我が国の研究者をマッチングするシステムを開発。



開発途上国自らの課題解決へ取り組む能力を強化

国際機関等への拠出金・分担金

1. IAEA分担金(軍不原)  
平成21年度原案内示額: 6,556,368(千円)
2. IAEA拠出金(軍原協)  
平成21年度原案内示額: 1,414,767(千円)
3. IEA分担金(経安)  
平成21年度原案内示額: 518,902(千円)
4. 国際開発教育・研究機関拠出金のうちアジア工科大学院(AIT)  
拠出金(国協国一)  
平成21年度原案内示額: 9,784(千円)
5. 国際農業研究協議グループ(CGIAR)拠出金(国地協)  
平成21年度原案内示額: 691,969(千円)
6. 国際農業研究協議グループ拠出金のうちアジア<sup>そさい</sup>野菜研究開発  
センター拠出金(国地協)  
平成21年度原案内示額: 6,686(千円)
7. 国際科学技術センター(ISTC)拠出金(軍科協)  
平成21年度原案内示額: 94,609(千円)
8. 原子力安全関連拠出金(軍原協)  
平成21年度原案内示額: 47,686(千円)

(了)